夏休み本番、感染再拡大警戒　除菌や入場制限…悩める道内行楽地

2022/07/30 北海道新聞

夏休みの週末、観光客でにぎわう五稜郭タワーの展望台＝３０日午前１１時（小葉松隆撮影）

新型コロナウイルスの感染「第７波」が拡大する中、多くの学校が夏休みに入って最初の週末となる３０日、道内の行楽地は多くの人でにぎわった。道内の新規感染者数は連日６千人を超え、感染リスクがつきまとう一方、熱中症の警戒も欠かせず、観光施設側は対応に神経をすり減らす。行動制限がない夏休みは旅行や帰省が増えそうで、専門家は「一人一人が責任を持って感染防止策の徹底を」と呼びかけている。

各地で気温が上昇した３０日。小樽市の「おたるドリームビーチ」は、若者や家族連れでにぎわった。千葉県から来た小学６年の稲垣周（あまね）君（１２）は弟の奏（かなた）君（９）と水浴びを満喫。「海の水が冷たくて気持ちいい」と笑顔を見せた。

道の２９日の発表では、道内の新規感染者のうち２０代の割合は約３３％、１０代以下は約２７％を占める。夏は若者や子供の行動範囲が広がり、今後も感染が広がりかねない。ドリームビーチ協同組合の深井静枝理事長（５０）は「感染予防に力を入れつつ、多くの人が楽しめるビーチに」と神経を配る。海の家のテーブルの除菌を徹底する一方、熱中症対策で昨夏は来場者に着用を求めていたマスクは「状況に応じて」と「お願い」にとどめる。

函館市の五稜郭タワーには、約２６００人が来館。愛知県の会社員山崎知宏さん（４３）は「感染再拡大は不安だが、この休みを逃すとどこにも行けなくなる」と話した。一方、タワーのエレベーター内では社員が「会話をお控えください」と要請。２年間にわたり中止しているスタッフによる館内案内は再開できずにいる。

旭川市旭山動物園の入園者数は約５２００人で、昨年の２倍超。石狩市の団体職員田中三吉（みつよし）さん（６４）は「一番印象に残ったのが『人間』というくらい混んでいた。感染には各自で気をつけるしかない」。同園は屋内施設の扉を開けたままにしたり、除菌装置を置いたりする感染対策をとる。

観光客らでにぎわう札幌・大通公園を散策していた同市白石区の無職吉田弘慈さん（４３）は「経済のためには行動制限はない方がいいが、コロナ禍の初期に感染者が大幅に増えた頃を思い出し、怖い」。さっぽろテレビ塔は展望台での密集に神経をとがらせ、担当者は「混雑時には一時的に入場制限するケースも想定している」と話した。

行動制限のない中、個人旅行も増えそうだ。日本旅行北海道（札幌）によると、８月の道内ホテルへの宿泊予約は前年実績を上回る。地元客の店頭申し込みは前年の約３倍で、道外からのネット予約は４倍余り。同社は「北海道は『密』ではないとのイメージが強く人気だ」とみる。

ただ、感染拡大が沈静化しなければ医療体制が逼迫（ひっぱく）しかねない。全道の２９日時点の病床使用率は２５・９％で、２０日から約１２・５ポイント上昇した。北海道医療大の塚本容子教授（感染管理学）は「旅行や帰省先での換気に気を配り、飲食店ではマスク会食も考えて」と指摘。子供への対応は「大人が感染リスクを強調しすぎて子供が不安を強めないよう、バランスに配慮してほしい」と話している。（久慈陽太郎、宮木友美子、鳥潟かれん）